

3 目指す教師像 生徒に手本を見せることのできる教師

教師は、生徒にとり、親に次いで身近な大人である。中学校は、「社会の中でよりよく生きていく土台作りの場」である。私たちは、社会人としての手本にならなければならない。挨拶は我々からして手本を見せる、時間を守る、そうすることで大人を信頼し、学校を信頼し、生徒との人間関係が築かれる。率先垂範である。生徒にも、「やってみせ、いってきかせてさせてみて誉めてやらねば人は動かじ」の姿勢で向き合いたい。また、自分自身が未完成であること、足りない部分があることを常に自分に厳しく問うことができる教師こそ「謙虚」さが生まれると思う。「謙虚」であるからこそ、自分の足りないところを補おうとして「学ぶ」ことができる。私たち教師は、厚顔無恥になることなく、学ぼうとする謙虚さを持ち続け、子どもたちの前に立ちたいと思わねばならない。

4 目指す生徒像 ～中能登スタンダード～

- ① 準備をしてチャイム前に着席 ② 礼儀正しい挨拶 ③ [聴く]と[話す]の切り替え

全教室に貼ってあるのはこの中能登スタンダードである。これこそが、生徒・教師が一緒になって求める生徒の姿だと思う。お題目は要らない。誰もがすぐ答えられる中能登中学校の生徒の姿は、「中能登スタンダード」である。その思いを込めて目指す生徒像とした。

5 目指す学校像 不登校ゼロ、いじめゼロ

学校の意義は大きく変わり、必ずしも学校が生徒の居場所でなくてもよい、フリースクールや、無理に登校させないという考え方もある。しかし、学校は子どもの居場所であってほしい。学校にいくと楽しいことがまっている。そんな、ワクワクが詰まった学校にしたい。